



令和8年10月9日

令和7年度「全国学生調査（本格実施）」の結果について

文部科学省では、中央教育審議会答申において提言された全国的な学生調査について、令和7年10月から令和8年3月まで、全国の大学生を対象とした大規模なアンケート調査を実施し、33万人を超える多くの学生から回答がありました。

今般、調査結果を取りまとめましたので、公表します。なお、本年から参加校の学部（短期大学については学科）別の調査結果についても公表することとしており、年内を目途に別途公表する予定です。

1. 趣旨目的

「全国学生調査」は、「学修者本位の教育への転換」を目指す取組の一環として、全国共通の質問項目により、学生の視点から大学教育や学修の実態を把握し、その結果を大学における教育改善や国の政策立案等に活用することを目的としている。

これまで、令和元年度、令和3年度、令和4年度及び令和6年度の計4回にわたり、適切な調査方法や質問項目等の検証・改善を行うため、試行実施を行ってきた。

本調査は、これらの試行実施で得られた知見や運用実績を踏まえ、制度設計を確立した上で実施するものであり、全国学生調査の本格実施の開始として位置付けられる。

2. 調査内容

(1) 調査対象

参加意向のあった734大学^{※1}に在籍する学部2年生（約61.8万人）及び4年生等^{※2}（約64.8万人）、並びに参加意向のあった短期大学237校^{※1}に在籍する2年生以上^{※2}（約2.7万人）。

^{※1} 今回調査では、調査方法や質問項目などを整理・検証し、全国学生調査の制度設計の確立を目的とすることから、全大学（780大学）に対して本調査へ参加協力の可否等について意向確認を実施し、94.1%の大学から参加意向の回答があった。同様に全短期大学（277校）にも意向確認を実施し、85.6%の短期大学から参加意向の回答があった。

^{※2} 各大学・短期大学の標準修業年限における最終学年の学生を対象とした。

(2) 調査方法

参加大学が以下の調査方法①～②から選択

- ①文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査（文部科学省が指定するURLに学生が直接回答）
- ②参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

(3) 質問項目

大学で受けた授業の状況、大学での経験とその有用さ、大学教育を通じて知識や能力が身に付いたか、平均的な1週間の生活時間等、全33問
(その他、自由記述(任意)1問)

3. 回答状況

(1) 全体の回答状況

対象	参加校数	参加校に 属する学部数 ※短大においては 学科数	参加校に属する 対象学生数（A） ※短大においては最終学年のみ		参加校に属する 対象学生数のうち 有効回答数（B） ※短大においては最終学年のみ		有効回答率 （B/A）
			2年生	4年生以上	2年生	4年生以上	
大学	734校	2,949学部※2	618,048人	647,957人	167,184 (27.1%)	152,515 (23.5%)	25.3%
うち基準※1 合致	579校 (78.9%)	1,855学部※2 (62.9%)	434,970人 (70.4%)	456,655人 (70.5%)	156,551 (93.6%)	142,437 (93.4%)	33.5%
短期大学	237校	443学科	27,746人		16,872		60.8%
うち基準※1 合致	177校 (74.7%)	309学科 (69.8%)	19,991人 (72.1%)		15,629 (92.6%)		78.2%
合計	971校	3,392 学部・学科※2	1,293,751人		336,571		26.0%
うち基準※1 合致	756校 (77.9%)	2,164 学部・学科※2 (63.8%)	911,616人 (70.5%)		314,617 (93.5%)		34.5%
(参考：第4回試行実施結果)							
大 学	540校	2,324学部	489,378人	513,163人	69,030 (14.1%)	62,277 (12.1%)	13.1%
うち基準※1 合致	304校 (56.3%)	811学部 (34.9%)	215,198人 (44.0%)	224,119人 (43.7%)	56,351 (81.6%)	51,085 (82.0%)	24.5%
短期大学	132校	248学科	17,647人		6,713		38.0%
うち基準※1 合致	61校 (46.2%)	106学科 (42.7%)	6,789人 (38.5%)		5,252 (78.2%)		77.4%
合計	672校	2,572 学部・学科	1,020,188人		138,020		13.5%
うち基準※1 合致	365校 (54.3%)	917 学部・学科 (35.7%)	466,106人 (45.7%)		112,688 (81.6%)		24.2%

※1 学部単位で「対象学生数が、①60人以上80人未満のとき、有効回答者数30人以上、②80人以上200人未満のとき、有効回答者数40人以上、③200人以上600人未満のとき、有効回答者数50人以上、④600人以上のとき、有効回答者数60人以上、⑤60人未満のとき、有効回答率50%以上」を集計基準として設定。

※2 学部の中に複数の分野が含まれる場合は、それぞれの分野を重複して計上

<集計基準について>

本調査の集計基準は、各大学・短期大学の学部・学科の回答としての代表性が損なわれないよう設定したものである。そのため、全体・設置者別・学年別の回答状況については学生から得られた全ての回答を集計に含めることとした。一方で、学部規模別・学部分野別の回答状況については、集計基準に合致した学部・学科の回答のみを集計した。（全体の回答状況以外のデータについては別添の資料編に示す。）

※本基準は、学部・学科の規模が60人未満の場合、50%の有効回答率を必要としたため、小規模の学部・学科が基準を満たせず、別添資料編に示したデータについてはこうした学部・学科の特徴が反映されていない可能性がある。

（２）大学の回答状況

<設置者※別の回答状況>

区分	参加校数	参加校に属する 学部数	参加校に属する 対象学生数（A）	有効回答数 （B）	有効回答率 （B/A）
国立	81校	504学部	215,532人	59,772	27.7%
公立	91校	244学部	67,380人	20,714	30.7%
私立	562校	2,201学部	983,093人	239,213	24.3%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

<大学規模※別の回答状況>

大学規模	参加校数	参加校に属する 対象学生数（A）	有効回答数 （B）	有効回答率 （B/A）
2,000人以上	188校	905,242人	188,773	20.9%
2,000人未満 1,000人以上	116校	169,379人	55,141	32.6%
1,000人未満 500人以上	165校	118,001人	47,022	39.9%
500人未満	265校	73,383人	28,763	39.2%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

<学部規模※別の回答状況>

学部規模	参加校に属する学部数	参加校に属する対象学生数（A）	有効回答数（B）	有効回答率（B/A）
800人以上	374学部	507,091人	85,490	17%
800人未満 400人以上	711学部	399,412人	105,671	26%
400人未満	1,864学部	359,502人	128,538	36%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

<有効回答率別の大学数・学部数>

有効回答率	参加校数
80%以上	66校
60%以上80%未満	85校
40%以上60%未満	132校
20%以上40%未満	167校
10%以上20%未満	117校
10%未満	167校

有効回答率	参加校に属する学部数
80%以上	263学部
60%以上80%未満	306学部
40%以上60%未満	453学部
20%以上40%未満	605学部
10%以上20%未満	476学部
10%未満	846学部

（３） 短期大学の回答状況

<設置者※別の回答状況>

区分	参加校数	参加校に 属する学科数	参加校に属する 対象学生数（Ａ）	有効回答数 （Ｂ）	有効回答率 （Ｂ／Ａ）
国立	—	—	—	—	—
公立	12校	31学科	2,064人	566	27.4%
私立	225校	412学科	25,682人	16,306	63.5%

※人数については、最終学年の在籍者数の合計

<短期大学規模※別の回答状況>

短大規模	参加校数	参加校に属する 対象学生数（Ａ）	有効回答数 （Ｂ）	有効回答率 （Ｂ／Ａ）
400人以上	1学科	539人	400	74.2%
400人未満 200人以上	32学科	8,277人	4,837	58.4%
200人未満 100人以上	86学科	11,998人	7,206	60.1%
100人未満	118学科	6,932人	4,429	63.9%

※人数については、最終学年の在籍者数の合計

※短期大学においては、規模が小さく、有効回答者数が少ないことから、短期大学規模別ののみを作成した。

<有効回答率別の短期大学数>

有効回答率	参加校数
80%以上	89校
60%以上80%未満	49校
40%以上60%未満	33校
20%以上40%未満	31校
20%未満	35校

(4) 調査方法別の回答状況

対象	調査方法	参加校数	参加校に属する学部数 ※短大においては 学科数	参加校に属する 対象学生数 (A) ※短大においては最終学年のみ		有効回答数 (B) ※短大においては最終学年のみ		有効回答率 (B/A)
				2年生	4年生以上	2年生	4年生以上	
大学	①	538校	1,991学部	454,438人	433,913人	86,425 (19.0%)	74,306 (17.1%)	18.1%
	②	196校	958学部	193,519人	184,135人	80,759 (41.7%)	78,209 (42.5%)	42.1%
短期大学	①	191校	358学科	22,421人		13,451		60.0%
	②	46校	85学科	5,325人		3,421		64.2%

※調査方法①：文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査（文部科学省が指定するURLに学生が直接回答）

調査方法②：参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

4. 質問項目ごとの回答内容

＜各質問項目の回答選択割合＞

（注１）回答選択の実数については、別添「令和７年度「全国学生調査（本格実施）」結果【資料編】」（以下、本資料において「別添資料編」と記載）参照。

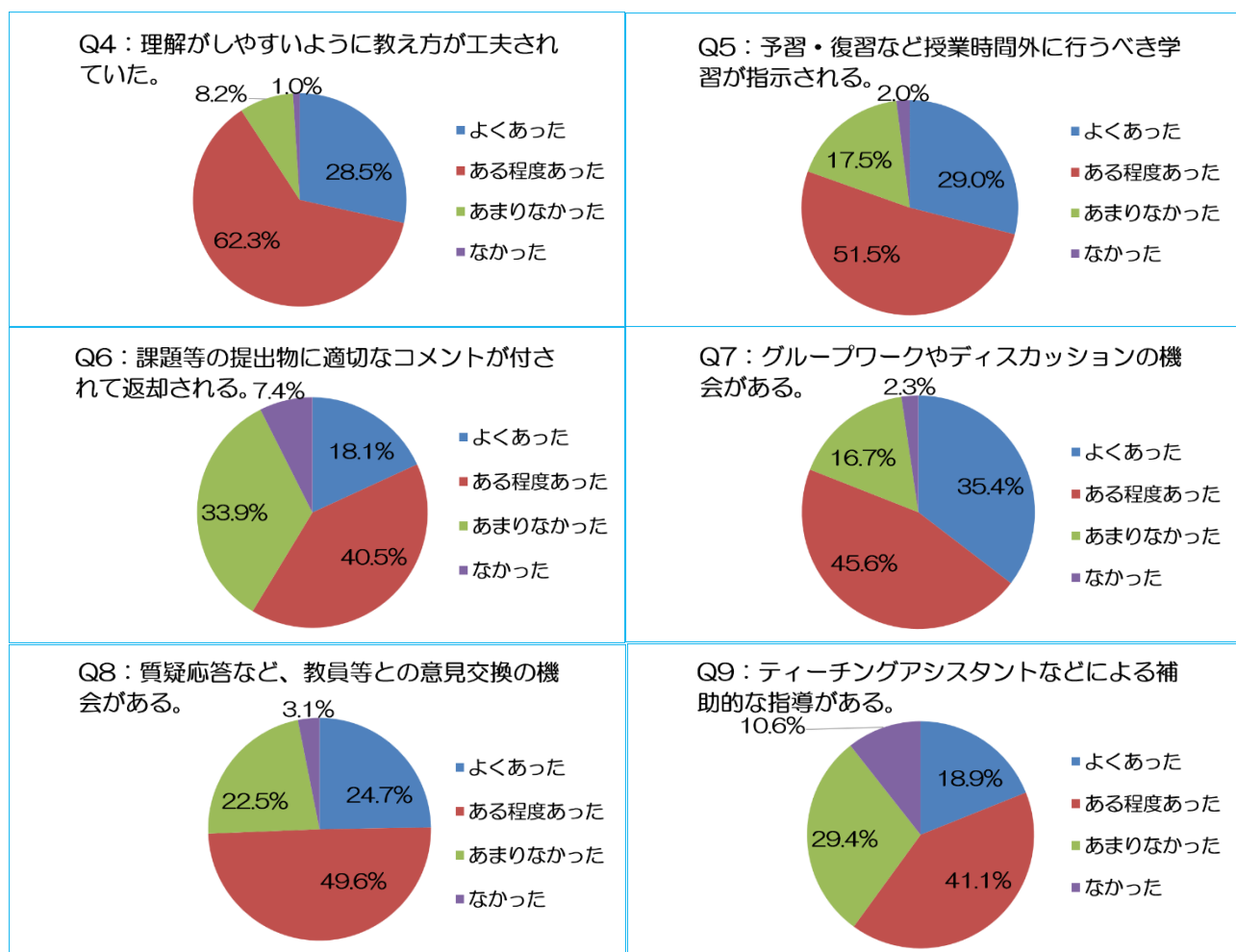
（注２）各質問の回答結果のポイントを記載する際に使用している割合は、小数第１位を四捨五入している。

【大学】

問１ 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

理解がしやすいような教え方の工夫（91%）、グループワークやディスカッションの機会（81%）等については、「よくあった」、「ある程度あった」という割合が高かった。

適切なコメントが付された提出物の返却（59%）、ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導（60%）については半数程度であった。

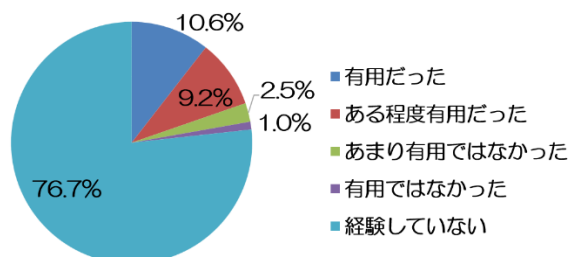


問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

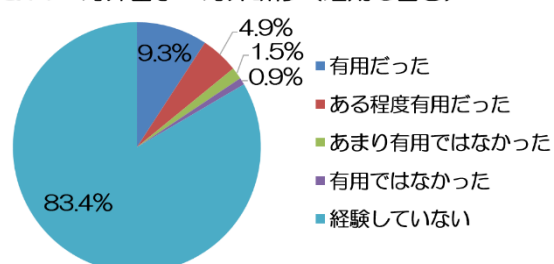
主に英語で行われる授業の履修については、6割以上が経験したことがあり、経験したことがある学生の約7割が「有用だった」、「ある程度有用だった」と回答した。

インターンシップ（5日間以上）（77%）や、海外留学・海外研修（83%）では、「経験していない」という割合が高かった。

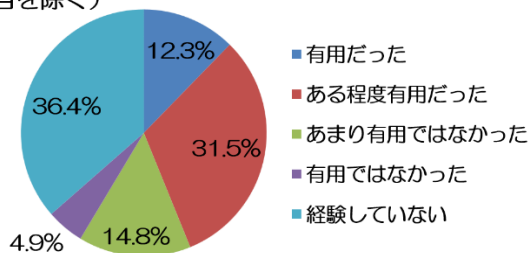
Q10：インターンシップ（5日間以上）



Q11：海外留学・海外研修（短期も含む）



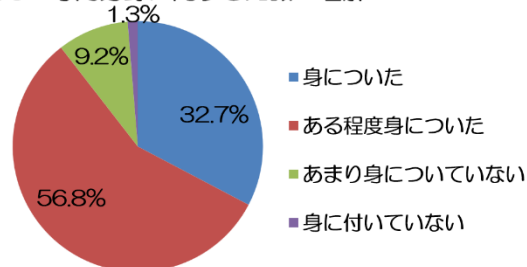
Q12：主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）



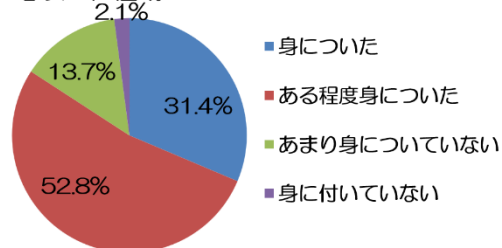
問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

専門分野に関する知識・理解（90%）、他者と協働する力（88%）、幅広い知識、ものの見方（89%）等について、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」という割合が高かったが、外国語を使う力（40%）については割合が低く、数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能（56%）については半数程度であった。

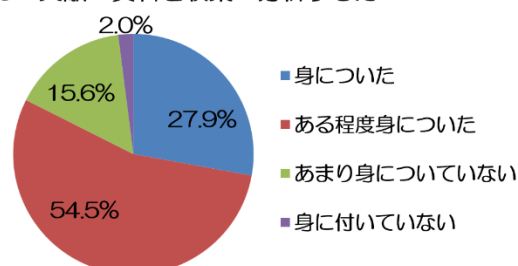
Q13：専門分野に関する知識・理解



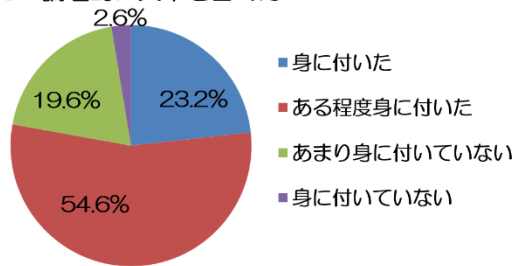
Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



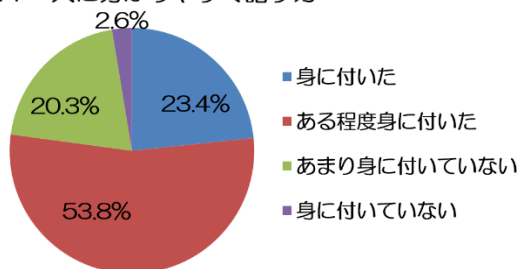
Q15：文献・資料を収集・分析する力



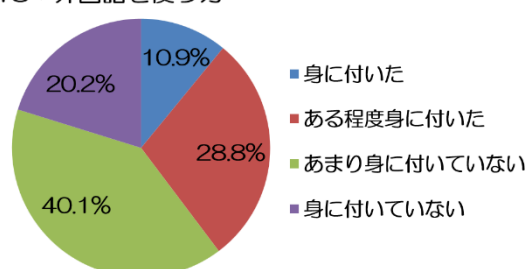
Q16：論理的に文章を書く力



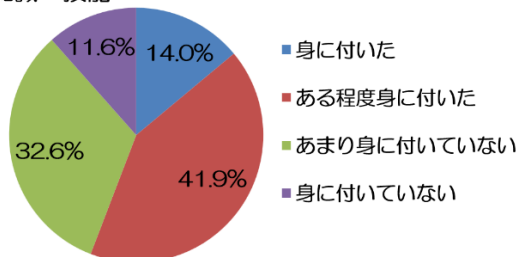
Q17：人に分かりやすく話す力



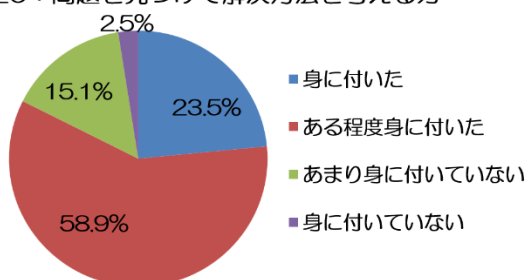
Q18：外国語を使う力



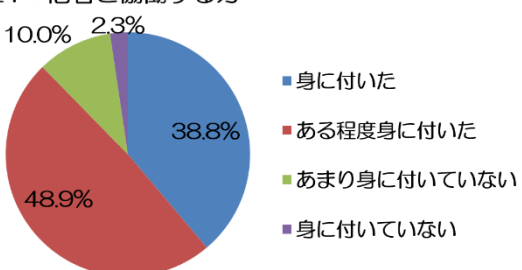
Q19：数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



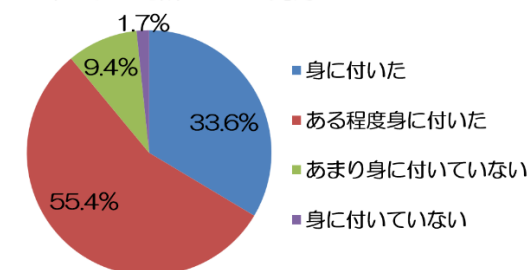
Q20：問題を見つけて解決方法を考える力



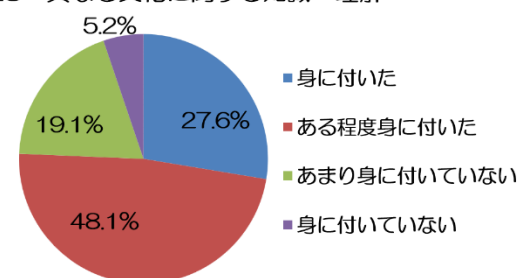
Q21：他者と協働する力



Q22：幅広い知識、ものの見方



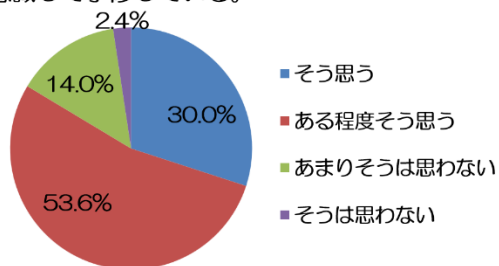
Q23：異なる文化に関する知識・理解



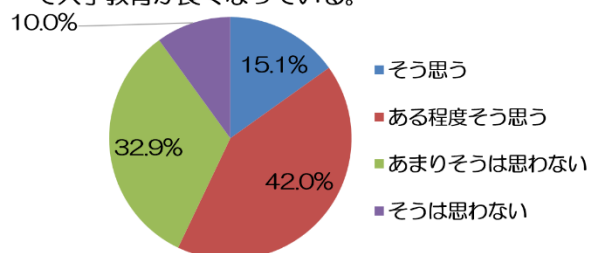
問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

大学の学びによって成長を実感している（86%）、卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している（84%）、教職員が熱心に教育に取り組んでいる（84%）について、「そう思う」、「ある程度そう思う」という割合が高かったが、授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている（57%）については半数程度となった。

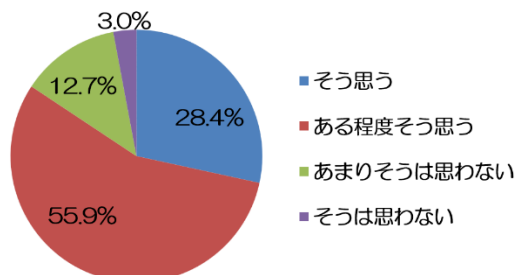
Q24：卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。



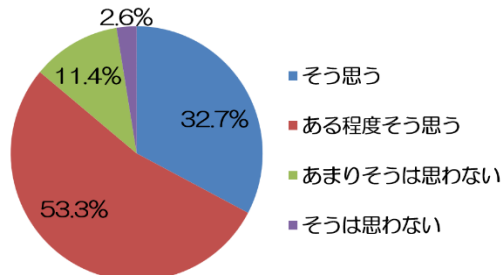
Q25：授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



Q26：教職員が熱心に教育に取り組んでいる。



Q27：大学の学びによって成長を実感している。

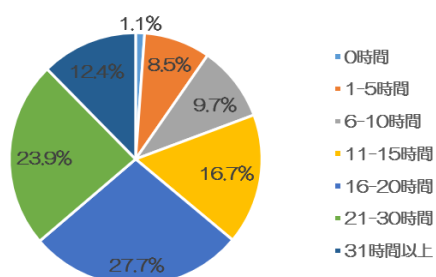


問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

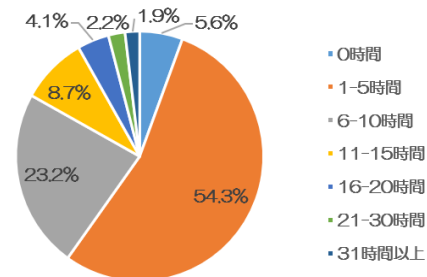
授業への出席は2年生で16時間以上が64%、4年生以上で5時間以下が60%。卒業論文等は4年生以上で16時間以上が32%。授業に関する学習は5時間以下が2年生で60%、4年生以上で75%。¹授業と直接関係しない自主的な学習は5時間以下が2年生で81%、4年生以上で66%。部活動／サークル活動は2年生で0時間が53%、4年生で0時間が71%。アルバイト等は2年生と4年生でともに11時間以上が約半数。

◆2年生（設問2を除く）

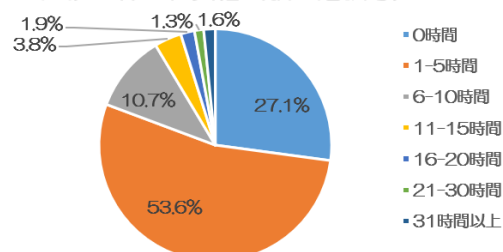
Q28：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）



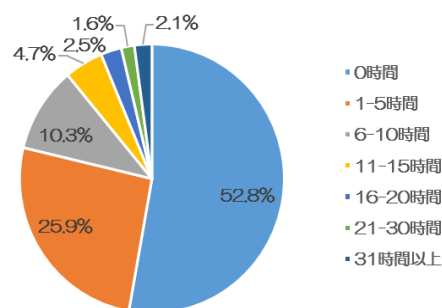
Q30：予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）



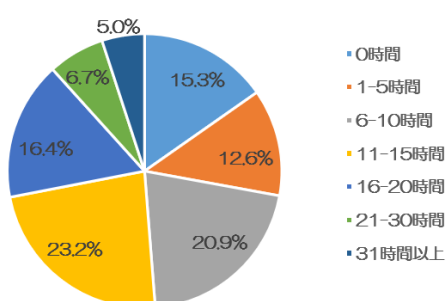
Q31：授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）



Q32：部活動／サークル活動

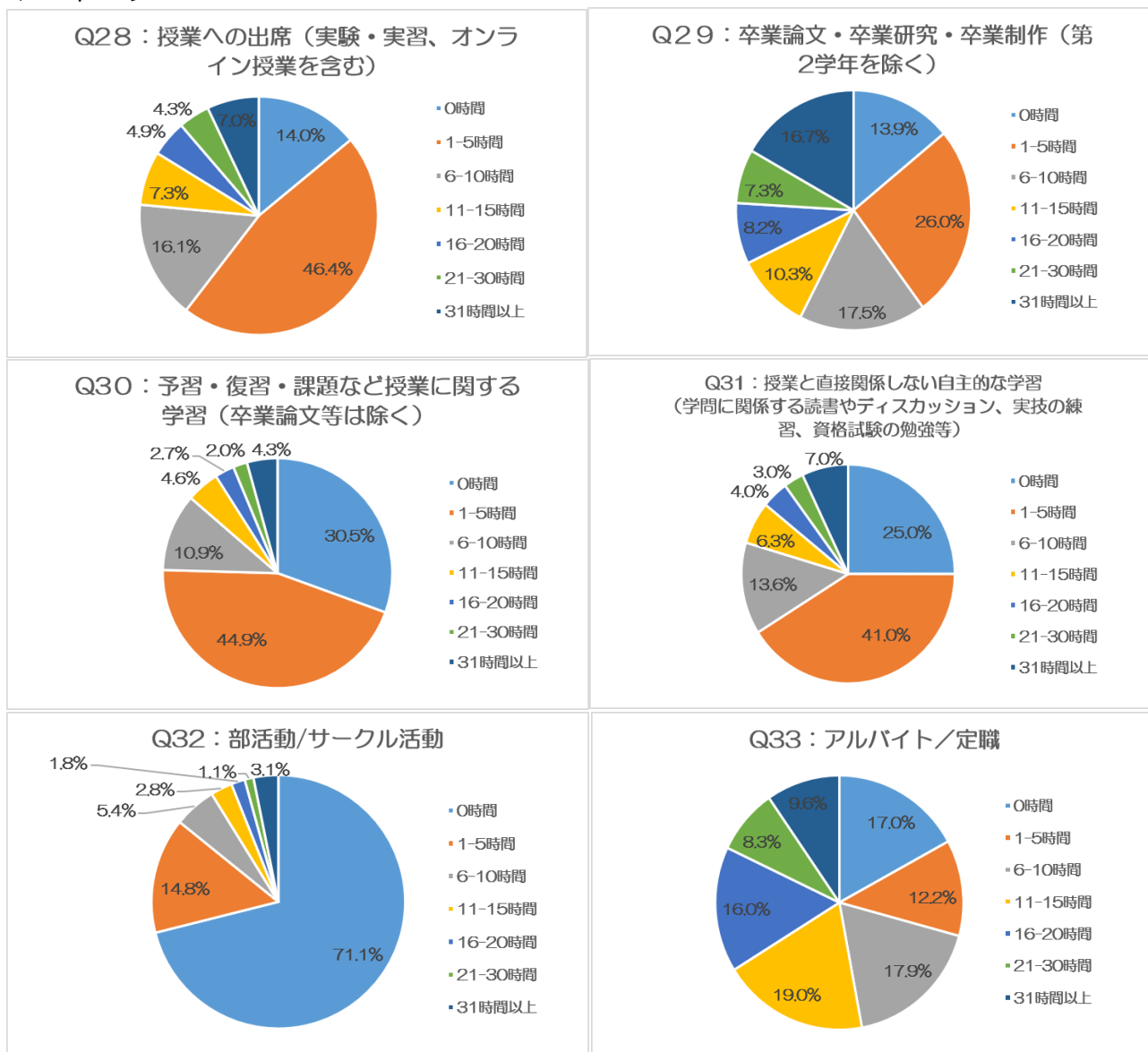


Q33：アルバイト／定職

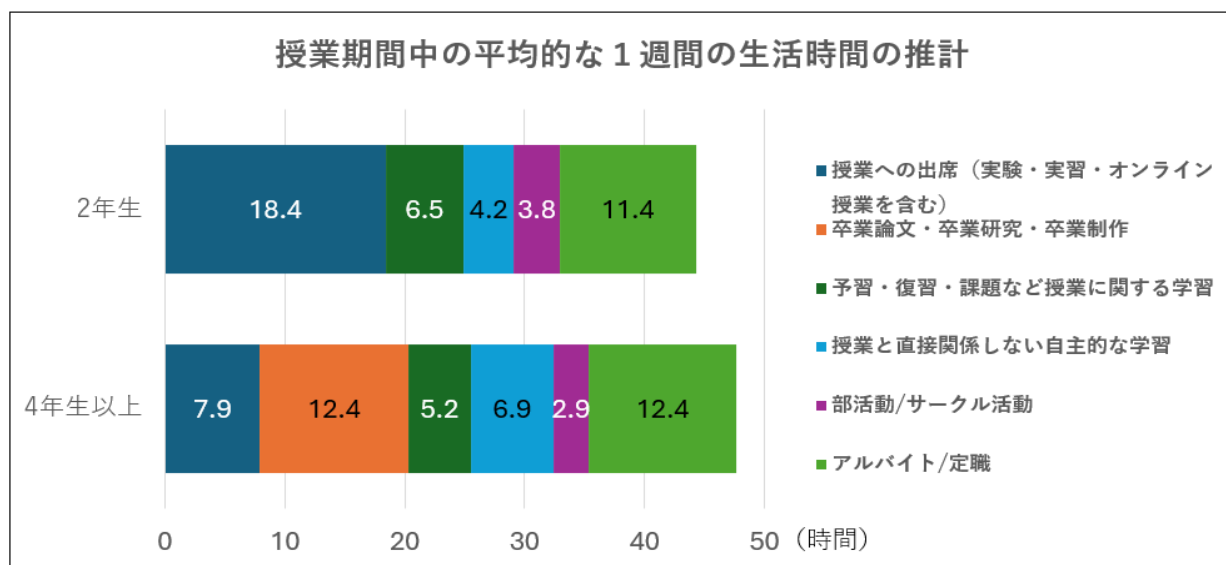


¹ 問5は、学年で回答の傾向が異なる場合があるため、学年別のデータを掲載している（その他の学年別データは別添資料編に掲載）。なお、【Q29】「卒業論文・卒業研究・卒業制作」については、最終学年のみの設問である。

◆ 4 年生以上



（参考）授業期間中の平均的な1週間の生活時間の推計



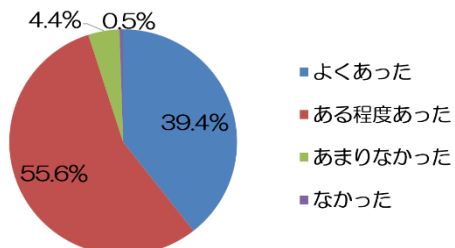
※各選択肢の中央値（ただし、31時間以上は33時間）に、各選択肢の割合を乗じたものを合算し平均時間を算出。

【短期大学】

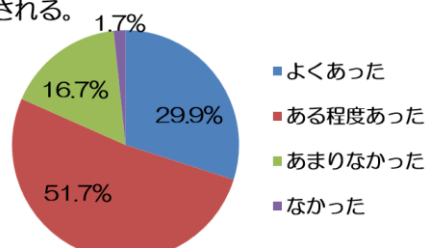
問 1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどれくらいありましたか。

理解がしやすいような教え方の工夫（95%）、グループワークやディスカッションの機会（92%）等、全体的に「よくあった」、「ある程度あった」という回答割合が高かった。

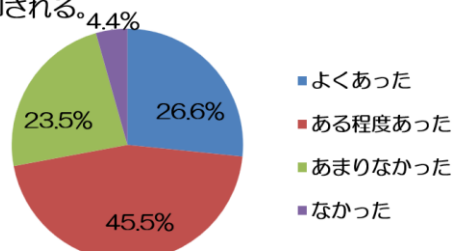
Q4：理解がしやすいように教え方が工夫されていた。



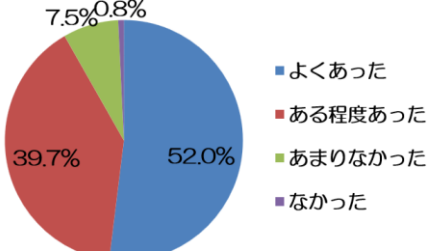
Q5：予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。



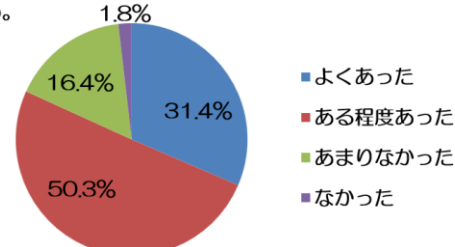
Q6：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。



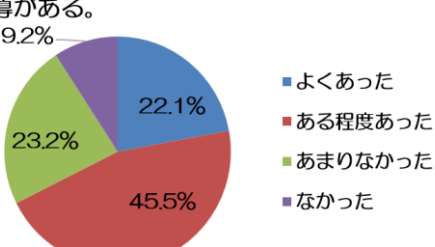
Q7：グループワークやディスカッションの機会がある。



Q8：質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。



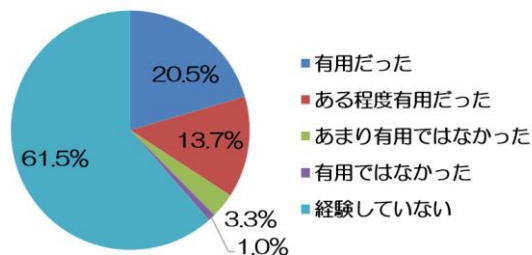
Q9：ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。



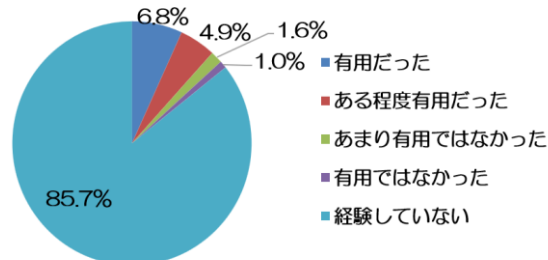
問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

主に英語で行われる授業の履修については、約6割が経験したことがあり、経験した学生の約7割が「有用だった」、「ある程度有用だった」と回答した。海外留学・海外研修（86%）、インターンシップ（62%）では「経験していない」という割合が高かった。

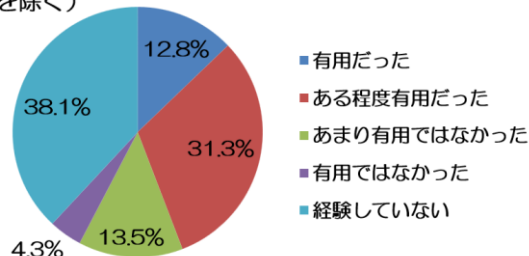
Q10：インターンシップ（5日間以上）



Q11：海外留学・海外研修（短期も含む）



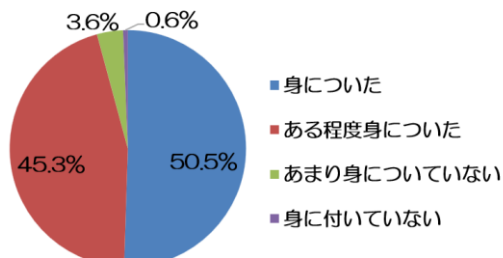
Q12：主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）



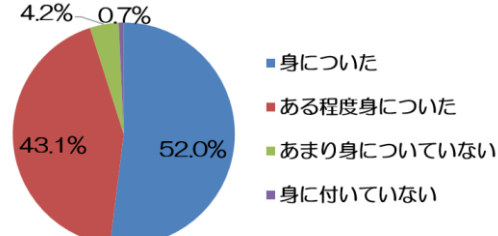
問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

専門分野に関する知識・理解（96%）、将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観（95%）、他者と協働する力（94%）等については、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」という割合が高かったが、外国語を使う力（37%）については割合が低く、数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能（49%）については、半数程度であった。

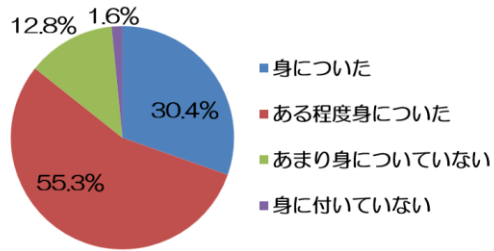
Q13：専門分野に関する知識・理解



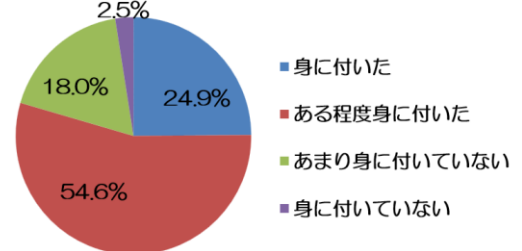
Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



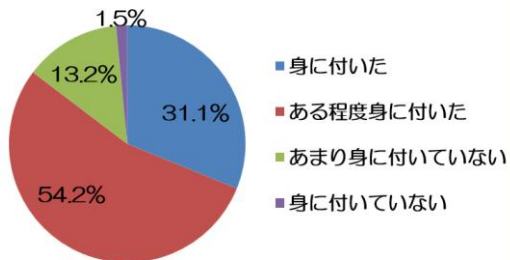
Q15：文献・資料を収集・分析する力



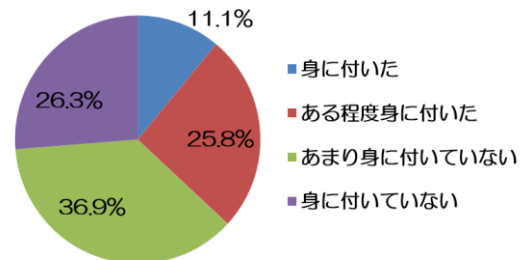
Q16：論理的に文章を書く力



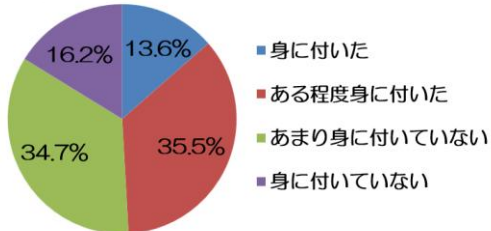
Q17：人に分かりやすく話す力



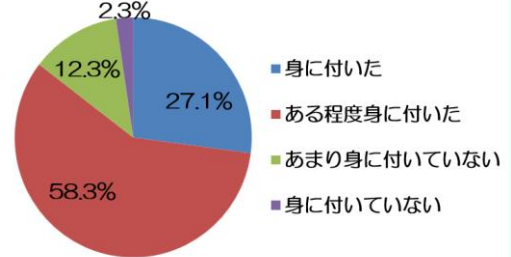
Q18：外国語を使う力



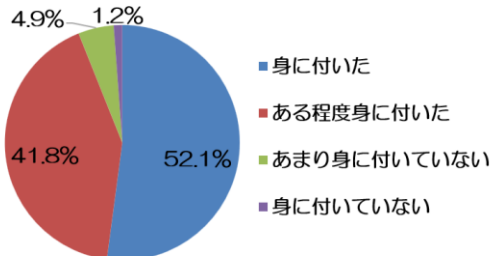
Q19：数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



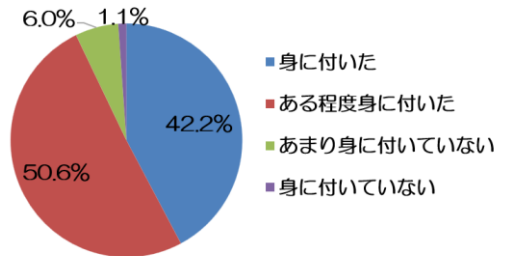
Q20：問題を見つけて解決方法を考える力



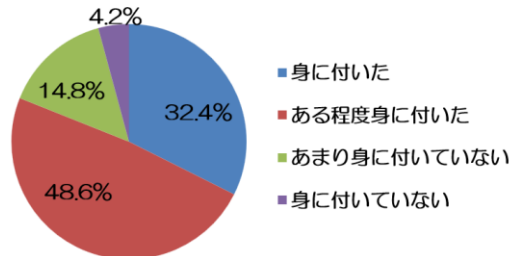
Q21：他者と協働する力



Q22：幅広い知識、ものの見方



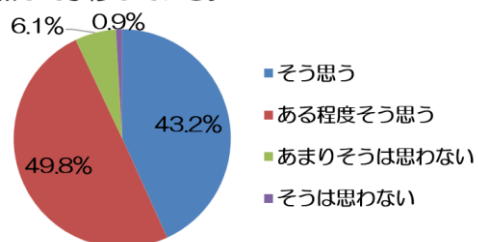
Q23：異なる文化に関する知識・理解



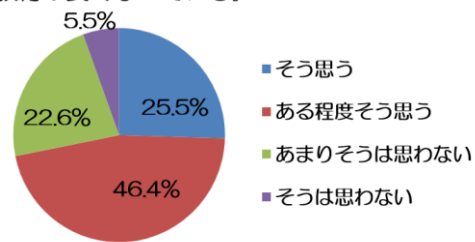
問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

卒業時までには身に付けるべき知識や能力を意識して学修している（93%）、大学での学びによって成長を実感している（92%）、教職員が熱心に教育に取り組んでいる（91%）については、「そう思う」、「ある程度そう思う」という割合が特に高く、他の項目についても比較的高い割合となった。

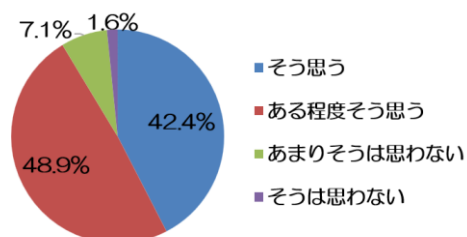
Q24：卒業時までには身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。



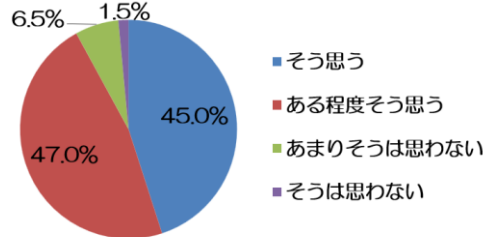
Q25：授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



Q26：教職員が熱心に教育に取り組んでいる。

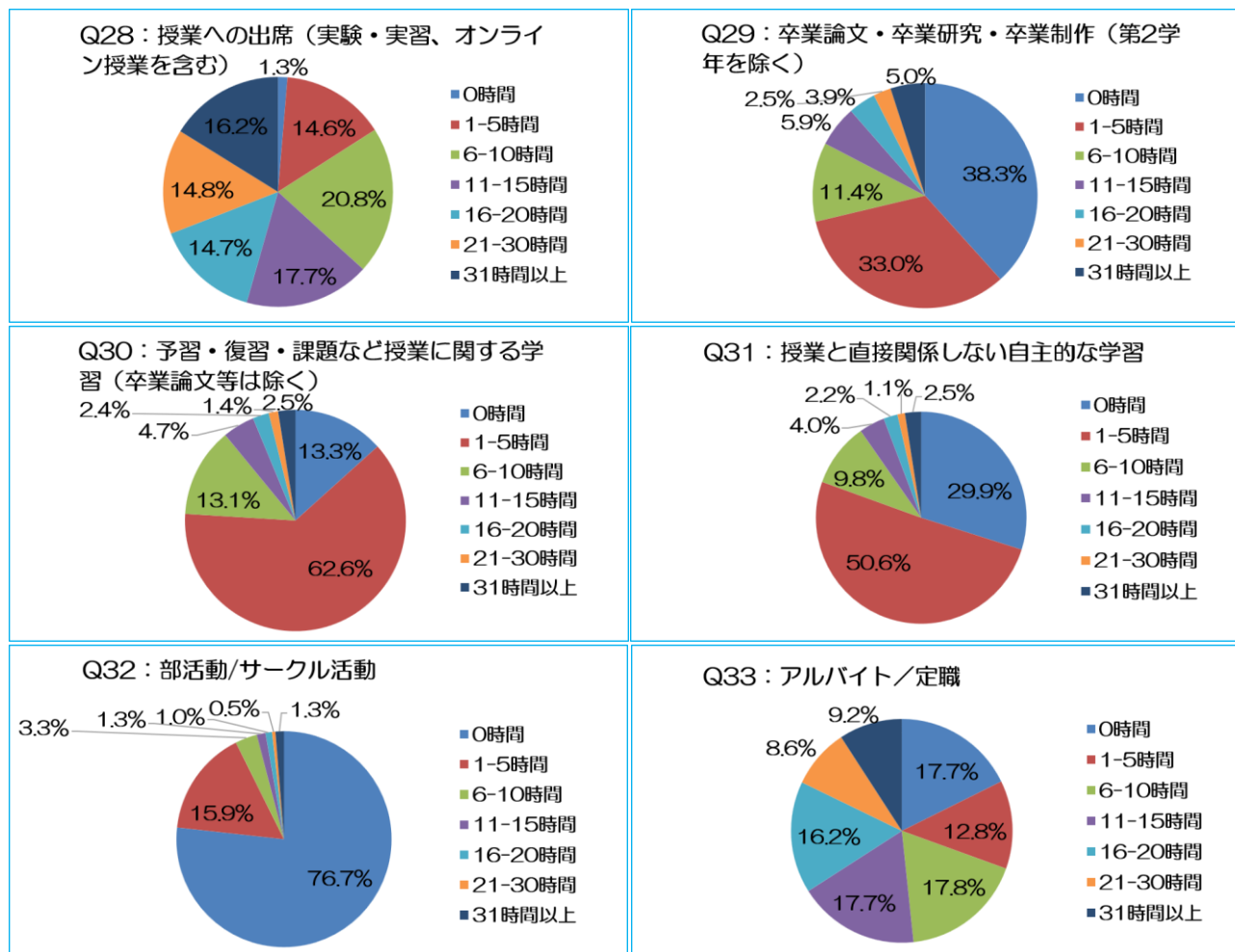


Q27：大学の学びによって成長を実感している。

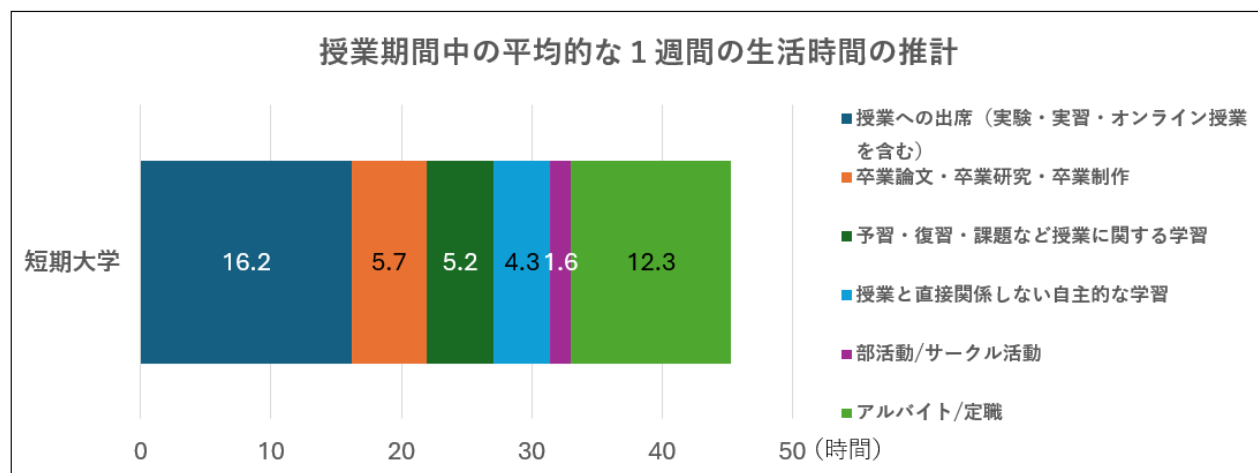


問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

授業への出席は16時間以上が46%、5時間以下が16%。卒業論文等は16時間以上が11%。授業に関する学習は5時間以下が76%。授業以外の学習は5時間以下が81%。部活動／サークル活動は0時間が77%。アルバイト等は11時間以上が52%。



（参考）授業期間中の平均的な1週間の生活時間の推計



※各選択肢の中央値（ただし、31時間以上は33時間）に、各選択肢の割合を乗じたものを合算し平均時間を算出。

全体的な結果の整理に加え、各大学・短期大学における把握・分析に資するよう、以下の項目について集計を行い、別添資料編にまとめた。

- 設置者別の回答状況
- 学部・学科規模別の回答状況（集計基準合致学部・学科）
- 学部・学科分野別の回答状況（集計基準合致学部・学科）
- 学年別の回答状況（大学のみ）
- 設置者別と学部等規模別の回答状況の組み合わせ（集計基準合致学部・学科）

5. 結果を踏まえた課題等

(1) 調査対象・時期・回答率について

今回調査は、大学での学修経験や身に付いた能力に関する学生の自己認識を確認する観点から、これまでの試行実施に引き続き、大学2年及び修業年限の最終学年の大学生並びに最終学年の短期大学生を対象に調査を実施した。また、調査実施時期は、10月から3月までの期間から各大学が1か月程度の期間を選んで実施した。

学生の回答率は、大学で25.3%、短期大学で60.8%となり、それぞれ前回調査（大学で13.1%、短期大学で38.0%）を大きく上回る結果となった。回答率が前回調査より向上した要因については、今回から本格実施として、本調査への参加や結果公表への同意が「大学教育再生戦略推進費」への申請・採択等における要件となること、私立大学等経常費補助金における指標となることを明示したことが影響したと考えられる。また、現在中央教育審議会では議論されている「新たな評価」において、今後、本調査の結果が活用されることが見込まれることから、有識者の意見も踏まえながら、大学・短期大学の参加率だけでなく、学生の回答率を更に向上させる方策を検討する必要がある。

(2) 回答方法について

今回調査については、前回調査と同様のインターネット（WEB）調査（調査方法①）または参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）（調査方法②）を各大学が選択する調査方法で実施した。調査方法②を選択した大学の回答率は、大学は42.1%、短期大学は64.2%であり、調査方法①の回答率（大学は18.1%、短期大学は60.0%）を上回った。また、回答者数は、前回の138,020人から約20万人増の336,571人となり、回答率は13.5%から26.0%となったことから、調査方法を選択可能なものとするとは、引き続き回答者数の増加及び回答率向上の効果があるものと考えられる。

(3) 質問項目について

本調査の実施要領において、「当面、原則として、第4回試行実施の質問項目（選択式33問程度、自由記述式1問）から変更しない」とこととしたため、昨年度と同一の質問項目とした。他方、今後の展望として「新たな評価」と全国学生調査との接続が求められているところ、調査項目の見直しも求められる。

(4) 各項目の回答状況について

《大学》

【Q6】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」

「あまりなかった」又は「なかった」と回答した割合は41%であり、昨年度の46%よりは改善傾向にあるが、引き続き高い水準にある。この項目については、自由記述においても「シラバスに個々へのフィードバックを行うと書かれていたにもかかわらず、提出物へのコメントがなかった」といった意見が見られた。学生が教員等から適

切なフィードバックを受けられないことは、学修の成果を学修者が実感できる「学修者本位の教育」の実現という観点からも課題であり、今後の改善が求められる。

【Q18】「外国語を使う力」

「あまりに身に付いていない」又は「身に付いていない」と回答した割合が 60%であった。昨年度が 64%であり、多少の改善は見られるものの、多くの大学において外国語が必修科目とされている中で、半数を超える学生が学修成果を実感できていないことが明らかとなった。

【Q19】「統計などデータサイエンスの知識・技能」

この分野は、例えば「統合イノベーション戦略 2025」（令和 7 年 6 月 6 日閣議決定）の中でも「数理・データサイエンス・AI」に関する素養を備え、社会のあらゆる分野で活躍する人材を大量に育成する」ことが盛り込まれるなど、重視される分野であるが、「あまり身に付いていない」又は「身に付いていない」と回答した割合が 44%と約半数であった。²

【Q25】「授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている」

「あまりそうは思わない」又は「そうは思わない」と回答した割合が 43%であり、昨年度の 48%から多少改善しているものの、授業アンケート等が大学教育の改善に生かされているという実感を持っていない学生が未だ多いことが明らかとなっている。

【Q27】「大学での学びによって成長を実感している」

「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答した割合は 86%であり、多くの学生は大学教育を経て自らの成長を実感していることが明らかとなった。

【Q28】「授業への出席」 ※実験・実習、オンライン授業を含む

【Q29】「卒業論文・卒業研究・卒業制作」

【Q30】 予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く

大学 2 年生は、授業への出席時間について、約 3 分の 2 の学生が週 16 時間以上、約 4 割の学生が週 21 時間以上であるなど、授業への出席時間が長い一方で、予習・復習・課題など授業に関する学習については週 5 時間以下の学生が半数以上となっている。これらの結果は前回調査結果と比較しても改善傾向が見られず、引き続き授業への出席時間に比して授業に関する学習時間が短くなっていることが明らかとなった。これは学期末の試験結果のみで単位認定が行われるなどの理由から学生が過剰な単位登録をしており、キップ制が実質的に機能していないことなどが考えられるが、大学設置基準において 1 単位が 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準としている単位制度の趣旨に鑑みても大きな課題である。

また、最終学年の学生については、授業への出席時間は 6 割以上の学生が週 5 時間以

² 「統計などデータサイエンスの知識・技能」については学部分野別の差異が比較的大きく、理学・工学においては「身に付いた」「ある程度身に付いた」とする回答の割合が高い（別添資料編 53 頁参照）。

下となっており、これに伴い、授業に関する学習も週5時間以下の学生が約7割を占めている。このように最終学年の学生は、授業への出席及び授業に関する学習時間が短い一方で、約3割の学生が卒業論文・卒業研究・卒業制作に週16時間以上、約2割の学生が週31時間以上と多くの時間を費やしていることがわかる。しかしながら、最終学年の学生であっても、約4割の学生は卒業論文・卒業研究・卒業制作を行う時間が5時間以下であり、最終学年においては、学習時間が極めて短い学生も一定数いることが伺える。こうした状況の背景には、就職活動等による影響や上記で指摘したキャップ制が実質的に機能していないといった課題があるものと考えられる。

《短期大学》

短期大学については、概ね大学と同様の傾向が見られたが、大学と比較して、全体として、短期大学の教育活動、短期大学での学びに対する肯定的な回答の割合が高い傾向にあった。

問1関係では、【Q6】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」に関する「よくあった」「ある程度あった」は計72%であり、大学より14ポイント高かったほか、【Q7】「グループワークやディスカッションの機会がある」は計92%であり、大学より12ポイント高かった。

問2関係では、【Q10】インターンシップ（5日間以上）を経験したことがある学生が39%（大学23%）と高い割合を示した。

問3関係では、【Q21】「他者と協働する力」が「身に付いた」「ある程度身に付いた」が計94%（大学87%）であり、上述したグループワークやディスカッションの機会が評価されていると捉えることができる。

問4関係でも、全体として、短期大学の学生は、自らの成長や身に付けた知識・技能について、大学の学生と比較してより肯定的に評価していることが明らかになった。また、【Q25】「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」では「そう思う」または「ある程度そう思う」と回答した割合は72%と大学よりも15ポイント高く、大学と比較してより学生の意見を踏まえた教学の改善を学生が実感できていることが見てとれる。

他方、問5関係では、【Q30】「予習・復習・課題など授業に関する学習」が5時間以下の学生の割合が71%であり、【Q31】「授業と直接関係しない自主的な学習（学問に係る読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）」では5時間以下が80%を占め、学習時間の短さは大学と同様に課題であると言える。

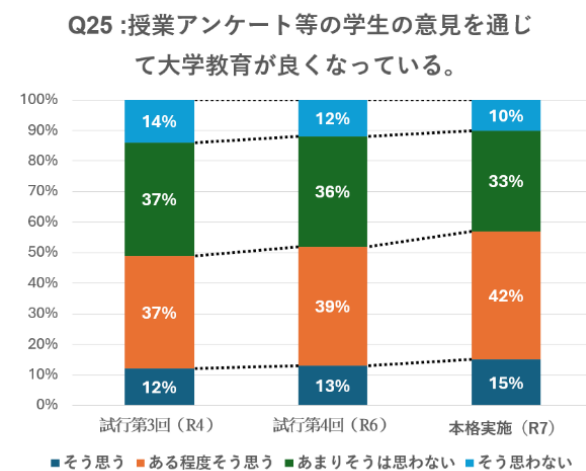
《これまでの試行実施との比較》

大学については、【Q7】「ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある」において、「よくあった」「ある程度あった」と回答した学生の割合が第3回（令和4年度）、第4回（令和6年度）試行実施と比較して増加した（53%→56%→60%）。【Q25】「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」の質問項目について、「そう思う」「ある程度そう思う」の割合が第3回（令和4年度）、第4回（令和6年度）と比較して増加しており（図1参照）、アンケートを通じた教育の質向上の取り組み

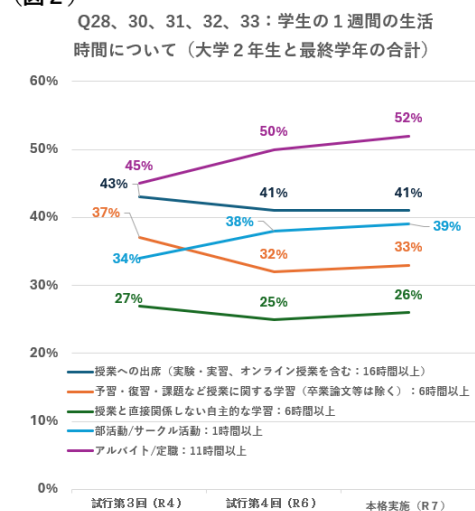
が進んでいることが見て取れる。その他、【Q11】海外留学・海外研修（短期留学も含む）を経験した学生の割合（大学は+3%、短大は+2%）が前回調査結果よりも高くなった。

これらに加えて、一方で、【Q30】予習・復習・課題など授業に関する学習時間（※卒業論文等は除く）について、週6時間以上の学生の割合が第3回（令和4年度）試行実施と比較して減少し、アルバイト、部活・サークル活動の時間が増加しており（図2参照）、新型コロナウイルス感染症の感染拡大期に増加していた学習時間が減少している状況が窺える。また、短期大学について、【Q6】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」という質問項目について、「そう思う」、「ある程度そう思う」の割合が第3回（令和4年度）、第4回（令和6年度）と比較して増加している。

（図1）



（図2）



（5）調査結果の取扱いについて

今回調査は、これまでの試行実施を踏まえ本格実施とした。公表内容は「全国学生調査の実施に関する有識者会議」における検討結果に基づき、全体の回答状況及び各大学の学部・学科ごとの集計結果を示す形とした（ただし、結果公表に同意した大学のみ。令和8年以内に公表予定）。

当初公表予定としていたポジティブリスト（肯定的な回答の割合が高い大学を上位順に一覧化したもの）には公表しない。

また、前回調査と同様、各大学において調査結果を教育の改善に活用できるよう自大学の回答のみを個別に送付し教育改善への活用を促進する。

（6）今後の対応

文部科学省としては、大学における「学修者本位の教育への転換」に向けた施策の検討に活用するとともに、今回明らかとなった調査実施上の課題等を踏まえ、「全国学生調査」の更なる活用を進めていく。なお、今年度から、学部（短期大学については学科）別の調査結果についても公表することとしている。具体的には、各学部（学科）における回答を度数分布の形で取りまとめ、年内を目途に別途公表する予定である。

<担当> 高等教育局大学振興課学務係

課 長 石橋 晶 (内線 2488)

課長補佐 松井 佳奈江 (内線 3322)

係 長 小松 隆宏 (内線 3034)

専 門 職 檜崎 達朗 (内線 3334)

電話 : 03-5253-4111 (代表)、03-6734-3334 (直通)